

2008年度 早稲田大学 国際教養学部

日本史 解答例

I 古代～近世の貨幣 <やや易>

問1エ 問2ウ 問3ア・オ 問4ア 問5ウ
問6イ 問7オ 問8ウ 問9エ 問10イ

早稲田ではわりと出題されやすい貨幣史の問題であった。難しかったのは問6である。室町時代に標準貨幣としてもっとも流通したのが永楽通宝だったため、その知識をもとに「明銭」を選んだ人が多かっただろう。しかし、「中世日本」と時代が広がってしまうと、宋銭の流通量の方が多いのである。単語として簡単であるため、このことを知らなかったことを悔やむ受験生が多いかもしれないが、実際には問3・4・8などの問題を消去法で解く知識があるかどうかの方が肝心であった。

II 近世の外交 <易>

問1オ 問2イ 問3エ 問4イ 問5ウ
問6オ 問7ア・オ 問8ア 問9イ 問10エ

これもまた早稲田では定番のテーマからの出題であった。問10を間違えた人は、文化史の用語にも時代順に気をつけなければならないものが存在することを知ってほしい。早大受験には必須の知識であった。この大問の中で解けないような問題は一つもない。

III 近代の史料 <やや易>

問1イ 問2エ 問3エ 問4ア・エ 問5オ
問6イ 問7ウ 問8ア 問9エ 問10ア

問8を勘で正解できた人もいようだろう。その場合は全問正解が可能であった。早稲田では人々の権利を求める運動についての出題率が高いが、この大問では史料1以外にひねった出題は見あたらない。史料3などは設問に出典が書かれているのが、むしろ残念なくらいである。

IV 満州事変 <やや易>

問1ア 問2エ 問3ア 問4エ 問5イ

問6ウ・オ 問7イ 問8ウ 問9ア 問10エ

国際教養学部特有の英文による史料問題だが、今回は「リットン報告書」であった。英語による空欄補充問題もないため、わりと解きやすかっただろう。難しいのは問2と問10で、消去法で選択肢をどれくらい絞り込めるかで正解率が変わってきた。

講評

早稲田らしい問題が多く、総じて簡単であった。